

# 「嫌悪」を表す動詞の意味分析 ——「嫌う」と「疎む」——<sup>1</sup>

馬場 典子

キーワード 感情動詞 嫌う 疎む シネクドキー メトニミー

## 1. はじめに

本稿の目的は、感情を表す動詞（以下「感情動詞」）のうち、「嫌悪」の感情を表す「嫌う」と「疎む」の意味分析を行い、その類似点と相違点を明らかにすることである。<sup>2</sup>

拙論(2009)では、中道・有賀(1993)を参考に感情動詞の性質について確認した。その結果、感情動詞は、基本的には「観察記述的」な性質（感情主の感情をテイル形で表す）を持ち、その中で特定の動詞および動詞句については「表出的」な性質（基本形で感情主の感情を即時的に表せる）を併せ持つことが明らかになった。この観点から見て、「嫌う」と「疎む」は以下の2点で共通している。

- ① 3人称感情主の感情を報告する場合、「ようだ／みたいだ／らしい」のような後接成分を伴わずにテイル形のみで報告できる。
- ② 1人称感情主の感情を報告する場合、基本形では報告できず、必ずテイル形を伴わないといけない。

つまり、この2つの動詞は「観察記述的」な性質を持ち、感情動詞の性質としては典型的なものと言える。

## 2. 先行研究

「嫌う」に関しては、小泉他編(1989)がある。「疎む」に関しては管見の限り先行研究はない。

小泉他編(1989)「嫌う」

- (1) 自分の気持ちにそわないのでいやだと思う。

(例) 弘はその女性を嫌っている・酒飲みは甘いものを嫌う・今の若者

は他人の干渉を嫌う

(2) ある状態や物に弱く、それによって損なわれがちである。

(例) 金魚は水道水を嫌う・タバコは湿気を嫌う・この観葉植物は寒さを嫌う

(3) よくないこと、忌むべきこととして避ける。

(例) 日本人は友引の日の葬式を嫌う・欧米の人々は13の数字を嫌う  
(pp.165-166 より引用者が一部要約、下線は引用者)

(1) の下線部「いやだ」とは、漢字表記すれば「嫌だ」<sup>3</sup>であり、「嫌う」と同じ漢字表記を含んだ形容動詞になる。つまり動詞の説明を、他の品詞で言い換えたにすぎない。また、「酒飲みは甘いものを嫌う」は「気持ちにそわない」のではなく「嗜好に合わない」例である。(2) についても「何が損なわれがちになるのか」が十分に記述されていない。(3) については「忌むべきこととして避ける」という説明は限定が強すぎると思われる。また(1)～(3)の別義間の関連性についての言及はない。よってさらに詳しく分析する必要があると思われる。

### 3. 分析

#### 3. 1. 具体的な分析の前に

具体的な分析に入る前に、本稿で扱う諸概念について確認しておく。結論を先取りして述べれば、「嫌う」には複数の別義が認められる。その別義間の関連性を説明するために、本稿では比喩の下位分類である「シネクドキー・メトニミー」を用いる。よってここではその概念を説明する。<sup>4</sup>

「シネクドキー」は初山(2002)によって、下のように定義されている。

シネクドキー：より一般的な意味を持つ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆に、より特殊な意味を持つ形式を用いて、より一般的な意味を表すという比喩。(p.69、下線は引用者)

シネクドキーを理解する上で重要なのは、「一般」と「特殊」との関係である。初山は「より一般的な意味とは、相対的に外延が大きい(指示範囲が広い)ということであり、より特殊な意味とは、外延が小さい(指示範囲が狭い)ということ(pp.69-70)」であると説明している。シネクドキーでよく知られた例には、

「花見」や「酒飲み」がある。「花見」の「花」とは「桜」を指す。つまり「花」という「より一般的な言語形式」で、その下位分類である「数多くの花の中の一つの種（より特殊な意味）」である「桜」を表している。また「酒飲み」の「酒」は、「アルコール飲料」一般を指す（つまり、より「一般的な意味」を表している）。しかし実際には、「アルコール飲料」には、（日本）酒の他にもビール・ワインなどさまざまな種類がある。それを「酒」という「より特殊な言語形式」で表している。これは「花見」と逆の例である。

次に「メトニミー」について初山(2002)は以下のように定義している。

メトニミー：二つの事物の外界における隣接性、さらに広く二つの事物・概念の思考内・概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。

(p.76、下線は引用者)

メトニミーにおいて重要なのは、「隣接性」と「関連性」である。「隣接性」を表す例としては、「一升瓶を飲み干す」「鍋の季節がやって来た」などがある。これはそれぞれ「一升瓶」や「鍋」に隣接する「（一升瓶に入った）酒」「（鍋の中の）料理」を表している。また「関連性」については、初山(2002:79)は「Aさんは本当に酒が好きだ（例文 32）」「やっとなレポートが終わった（例文 33）」を例として挙げている。この場合の「酒」は前述の「シネクドキー」の例の「酒」とは違い、「酒を飲むこと」を表している。また「レポート」とは「レポートを書くこと」を表している。つまり、それぞれの「もの」を表す言語形式で、「ものに関わること（両者の例の場合は「行為」）」を表している。

以上、本稿で扱う諸概念について確認した。では次節から具体的な分析に入る。

### 3. 2. 「嫌う」の意味分析

「嫌う」には感情を表す用法と、感情以外の意味を表す用法とがある。まずはじめに、感情を表す用法から見ていく。

#### 3. 2. 1. 感情を表す「嫌う」

別義 1（基本義）：<感情主が><ある人物やモノ（の持つ属性）や事態に対して><自分の嗜好基準と合わないため><よくない印象を抱き><拒否反応を示す>

(対象が具体的なもの)

- 1) イングランドの人はフーリガンを嫌っていることを覚えていてください。  
(<http://www2.asahi.com/2002wcup/kaisai/osaka/020419a.html>)
- 2) 両親も日本人を嫌っていたように日本人も米国人のことを怪物や悪魔だと思っていたと知った。  
(<http://mytown.asahi.com/nagasaki/news02.asp?c=5&kiji>)
- 3) アウネスト・ブラドンと変名したジョウジ・ジョセフ・スミスと、看護婦アリス・バアナムとが知りあいになったのは、英国南部の海岸町アストン・クリントンだった。バアナム家は、そうとう手広くやっている石炭屋で、父母と、アリスのほか五人の兄弟姉妹があつたが、ブラドンのスミスは、最初から、そのたれ [ママ] にも気受けがよくなかった。ぐうたららしい彼の容貌や態度が、家人の気に入らなかつたのだ。ことに父親の老バアナムは、ひどくブラドンを嫌って、娘に会うために家を訪問して来ることを、きっぱり断った。  
(<http://www.aozora.gr.jp/cards/000304/files/1877.html>) (括弧内および下部は引用者)
- 4) 最近、子どもがやたらと虫を嫌います。名古屋市衛生局の統計ではセミやバッタといった普通の虫ですら嫌う率の多い世代は子どもと主婦だという結果が出ています。  
(<http://www.sinfonia.or.jp/~isoptera/myhtm/mushi.html>)
- 5) うちの御住持さまは大変に犬を嫌っていなすった。  
(<http://www.aozora.gr.jp/cards/kidou/htmlfiles/kitsune.html>)

1)~5)の例は、「人や生き物」といった具体的な対象に対して、感情主が「よくない印象」を抱いていることを示している(cf.「気持ちにそわない」(小泉他編(1989)) )。この「よくない印象」は何故生まれるかを考えてみると、それは自分の「嗜好(ものの好き嫌い)」が判断基準となっているからだと考えられる。つまり、社会的な通念に照らして、ある対象の善し悪しを決めているのではなく、感情主の嗜好基準に合わないために、ある対象に対して拒否反応を示している。これが「嫌う」の基本義だと思われる。

(対象の具体性が薄れ抽象度が高くなるもの)

- 6) 男性用化粧品大手のマンダムは4~6月のヘアカラーの売り上げが前年比50%増と好調だった。担当者は「男性の毛染めが、W杯効果でそれまで

嫌っていた中高年層に受け入れられるようになり、市民権を得た」と分析する。

(<http://www.asahi.com/life/shopping/020724a.html>)

7)無理からぬことと思います。家内はもともと消極的な女で実につつましい片隅の家庭生活の幸福だけを私に望んでいたのも、所謂私の世間的な出世や華々しい成功などは寧ろ嫌っているのでありました。

(<http://www.aozora.gr.jp/cards/ozakihotsumi/files/isyo.html>)

6)7)の例のように、「嫌う」対象は人や虫、犬のような具体物ではなく、「男性が毛染めをすること」「出世や成功」という事態に対しても用いられる。6)は、W杯以前は中高年層の男性が若い男性が毛を染めることに対して、「毛染めは女性がおしゃれでするものだ（それなのに男性が同じように髪を染めるなんておかしい）」、あるいは「毛染めとは白髪染めのことだ（だから若い男性が黒髪を染める必要はない）」という「毛染め」に対する嗜好基準を持っていると考えられる。そして「若い男性が個性の演出として毛を染める」という実態に「よくない印象」を抱き、拒否反応を示している。また7)は、亡くなった妻は生前消極的な人で、家庭の慎ましやかな幸福だけを夫に望んでいた。つまり妻にとっては、慎ましく平凡に暮らすことが自分の嗜好基準に合っていた。しかし、これとは反対に、夫の出世や成功といった華々しいものに対してはよくない印象を抱き、拒否反応を示していると考えられる。

別義2（別義1からのメトニミー）：<感情主が><ある事柄や事態に対して><自分の信念や願望と合わないため><よくない印象を抱き><反感を持つ>

8)（米国の治療共同体「アミティ」の主宰者2人へのインタビュー記事）前身のシナノンが営利企業化したのを嫌って脱退したナヤさん（代表）とベティーさん（事務局長）たちが、80年代からカリフォルニア州などでプログラムを発展させてきた。

(<http://mytown.asahi.com/tama/news02.asp?c=5&kiji=345>)（冒頭の括弧内は引用者による補足）

9)部落内の農家へは、自作百姓の豊作と栄三と金平とが雨の降る日毎に廻った。

「どうもよく降りますね。新道は、まるで泥田のようですよ。それで一つ。住宅の人達にも寄附して貰って、砂利を敷き度いと思うんですが、幾らで

も、お思召しで結構ですから寄附して頂き度いと思ひましてね。」  
豊作が先ず斯う、燥（はしゃ）いだ口調で切り出したのであった。

「砂利を敷くんですって？ わたしゃあ、砂利を敷いた道路を歩くのあ大嫌いでさあ。わたしの歩くどこだけ、細くあけて置いて貰いますべ。砂利を敷いたごろごろ路ばかりあ、わたしゃあ、何んと思つても嫌いでさあ。」  
斯う言つて甚吉はその寄附を撥付（はねつ）けた。

彼は、極端に土地の発展を嫌っているのだ。彼は何処までもじみに百姓を続けて行こうと思つているからであった。

(<http://www.aozora.gr.jp/cards/000134/files/2724.html>)

8)になると、基本義のようなく自分の嗜好基準に合わない>という単なる嗜好の問題だけではなく、<自分の信念や願望に合わない>という意味特徴も必要になるように思われる。そしてさらに「営利企業化したのを嫌う」とは、「治療共同体を利益追求型の企業にするという考え方に対してそうすべきではないという反対の意を持つ」とも受け取れる。また 9)は、「今まで通り何も変わらないままの百姓の生活がよい」という願望を持っていると思われる。よつて（「新道ができ、そこに砂利を敷く」という）「土地の発展」は、変化を好まない彼の考えには合はず、むしろ反意を持っていると考えることができる。つまり別義 1 での<嗜好>という判断基準から、8)9)では<自分の信念や願望>というより強い判断基準になっており、さらには<拒否反応を示す>という心理状態が<反意を持つ>という信念や願望に基づいた強い拒否反応を表すようになっている。そしてこの<反意を持つ>ことが焦点化されているとも考えられる。次に示す例は、6)7)と 8)9)の中間例に当たると考えられるものである。

10)生協の人たちが花見やスキーをしに来るようになり、酒杯を交わしながら話した。「虫食いの跡があるキャベツは食べられても、生きた虫が挟まっていたらどうか」と問うと、農薬使用をあれほど嫌っていた相手が「生きた虫は嫌だ」とこたえた。そんな肉声を聴くこともできた。

(<http://mytown.asahi.com/yamagata/news01.asp?c=5&kiji=382>)

農薬使用に関しては、（どんな農薬を使ってよいかは）「批准書」で細かく取り決められている。したがつて生協の人は、農薬を使用することに全面的に反対しているわけではない。また農薬の使用は長期的に見れば、人体に何らかの影響を及ぼす可能性もあり、農薬の使用は単に<嗜好基準に合わない>と片付けられるものでもない。よつて 10)の例は<嗜好基準に合わない>という基本

義とくある事態に対して反意を持つ」とい別義2の中間にあたる例だと考えられる。

以上、別義2（および別義1との中間例）を見たが、別義2は、<よくない印象を抱き>その結果<反意を持つ>というところまでを含意している。よって別義2は、別義1からの因果関係のメトニミーにより意味が成立していると考えられる。

では、次の例を見てみよう。以下の例は、10)の例と使われ方が近いが、感情主の行為がより強く感じられる例である。

別義2'（別義2からのメトニミー）：<感情主が><ある事態に対して><自分の嗜好（考え）と合わないため><その事態を行わない>

11) 20世紀イギリスの代表的な陶芸家ルーシー・リーさんの回顧展が、滋賀県信楽町の県立陶芸の森陶芸館で開かれている。（中略）今年にはリーさんの生誕100年目。これにちなんでアメリカの個人コレクターの収集品を中心に、国内の美術館などからも集めた約100点で回顧する。

ウィーン生まれだが、ナチスの迫害を避けて38年に渡英。リーさんらしさが出るのは50年代以降で、65年には線を引き下地を見せる掻（かき）落としと、別の土などを埋め込む象嵌（ぞうがん）で、繊細さが際立つ「花生（はないけ）」（京都国立近代美術館蔵）を生み出した。釉薬（ゆうやく）を窯の中で流れるままにした作品もあり、窯まかせを嫌う西洋の作家の中では珍しい。60年代の取っ手のないミニカップなどは、日本の湯飲みといっても不思議ではないほどだ。

(<http://www.asahi.com/culture/bunka/K2002052103089.html>)

11)の例は、「西洋の作家は、釉薬を窯の中で流れるままにして焼き上げるといふようないわゆる「窯まかせ」の焼き方は好まず（または自分の考えに合わず）、そのような手法は取らない」という意味である。この例では、「窯焼き」という陶芸の仕事についてその手法の是非が問題になっているので、単なる「好き嫌い」のレベルにはとどまらず、別義2のように「自分の信念」も併せて反映されていると考えることもできる。その点では、別義2とも近いと言える。ただし、別義2との違いは、別義2が<反意を持つ>ことまでを意味するのに対し、11)の例は「「窯まかせ」という手法が自分の嗜好基準（信念）と合わないため、その事柄（「窯まかせにすること」）を行わない」という結果の事態までを含意していると感じられることである。よって、この別義を別義2'とする。

5

別義2'は、別義2よりもさらに「結果の事態」を表すため、別義2からの因果関係のメトニミーにより理解可能になっていると考えられる。

さて、ここまでの別義1から別義2'までは、ある事態や事柄に対して、「感情主の嗜好がある事態に対して合うか合わないか」が問題となっていた。しかし次の別義は、今までとの別義とは違い「感情としての嫌悪感」が少し薄らいでいる。

別義3（別義2'からのシネクドキー）：<感情主が><ある事態を><自分にとって不利益なため><回避しようとする>  
（他の動詞「避ける」との連続性が感じられる例）

12)南大植は洪明甫をスーパースターに起用した理由を振り返る。（中略）一対一には弱さがあり、混乱で身体接触を嫌う――。

(<http://www.be.asahi.com/20020525/W14/0037.html>)

スーパースターとは、「サッカーでディフェンダーのうち、マークする特定の相手をもたず、ゴールキーパーの直前に位置する選手（『大辞林』（第二版）p.1318）」のことである。このポジションに洪明甫選手が起用された理由の一つは、「選手同士が試合中にボールを奪いあうためにかなり激しい動きをし、身体がぶつかることも頻繁にあるが、洪明甫選手はそのような接触はしたくない、避けたいと思っている」からだと思える。つまり、感情主がある事態に対して、自分にとってそれがマイナスの事態を引き起こすと判断し、その事態を回避することだと考えられる。

この「ある事態を回避する」という点については、小泉他編(1989)の「嫌う」の意味特徴「(3) よくないこと、忌むべきこととして避ける。」<sup>6)</sup>と一部重なる。また、「身体接触をしたくない、身体接触を避けたい」と思う背景には、そのような接触によって怪我をする可能性や、接触した選手と口論になるかもしれないという、「自分にとって不利益なことを回避したい」という気持ちが存在するからだと思う。この「避ける、回避する」という意味特徴は、前述した小泉他編(1989)の(3)に挙げられているが、限定が厳しすぎると思われる。何故なら、この記述に従うと「避ける」という意味で「嫌う」を用いた場合、その対象となるのは、必ず「よくないこと、忌むべきこと」でなければならないからである。では次の例を見てみよう。

13)（新潟県人で「Uターン型」あるいは「天上大風型」と言われる人は）厳



しい風土を嫌って出て行きながら、もう一回覚悟のうえで帰ってくる。

(<http://mytown.asahi.com/niiyata/news01.asp?c=5&kiji=93>)

14)それで今日独身で立とうという女子があれば、やむをえない事情からの覚悟であって、決して結婚を嫌っているのではないのです。

(<http://www.aozora.gr.jp/cards/yosanoakiko/files/jyosinodokuritsujiei.html>)

13)14)も 12)と同じく「避ける」に近い意味で用いられている。13)は、「新潟県人のタイプのうち「Uターン型」あるいは「天上大風型」といわれる人は、新潟の厳しい気候や生活条件が自分には合わないため、この厳しさから逃れる(避ける)ために新潟を出て行き、そしてまた帰ってくるタイプの人である」と読みとれる。また 14)は、「独身を通そうとする女性は、それなりの事情があるのであって、結婚を(したくないから)避けているのではない」と理解できる。これを小泉他編(1989)の記述に沿って説明すると、「厳しい風土や結婚はよくない、忌むべき事であるから避ける」という意味になってしまう。「厳しい風土」がよくないことか否かは議論が分かれるところかもしれないが、少なくとも「結婚」がよくないことであるという説明は成り立たないと思われる。よって小泉他編(1989)の「よくないこと、忌むべき事として」という記述は、限定が強すぎ妥当ではない。

さらに「厳しさに合わない」という点は、厳しい風土(気候条件など)が自分(の体)に合わない、つまり「感覚的に合わない」と考えることができる。また結婚は好き嫌いの問題ではなく、「結婚(生活)が自分に合うか合わないか」が問題となっていると思われる。

ではさらに次の例を見てみよう。

(他の動詞「困る」との連続性が感じられる例)

15)子供の頃、外へ出て思い切り遊んだ。しかし、今の子供は動かない。「もう危機的ですよ。ぜんぜん鍛えられていない。」子供に原っぱで遊べって言っても、子も親も汚れるのを嫌うから無理だ。

(<http://www.be.asahi.com/20020928/W11/0035.html>)

16)たとえば台所で洗い物をする迫さんは、コップや皿の底の丸い出っ張りをことさら念入りに洗う。誰かに教えられたわけでもない。思い起こせば生家の台所で、目に触れないところでも黒ずんでしまうのを嫌う几帳面(きちょうめん)な母親が長年、そうしていた姿を記憶に焼き付けていたからというほかない。

(<http://www.be.asahi.com/20020713/W21/0001.html>)

15)は、子どもとその親たちが「汚れてしまうこと」に対して、単に「よくない印象を抱く」だけではなく、「服が汚れたら困る」という心理が働いているためだと推測できる。子どもの側からすれば「服が汚れてしまったら、お母さんに叱られるかもしれない。」と思うだろうし、親の側からは、服を汚して帰ってきた子どもに対して「どうしてそんなに汚してきたの。洗濯が大変じゃない。」と言うかもしれない。その双方に共通するのは、「服が汚れたことによって自分が不利益を被るから困る」という心理だと考えられる。また 16)は、きれい好きな母が「台所の見えないような場所が黒ずんでしまうこと」に対して、単に「よくない印象を持つ」だけではなく、一種の「拒否反応」が表れるためだと思われる。そしてその拒否反応の裏には、「台所の見えないような場所でも黒ずんでいたら不潔だから困る」という心理が働いているからだと思われる。以上のことから、「嫌う」という感情が「困る」という感情と連続性があることが示唆される。<sup>7</sup>

さらに 15)の例では、「服が泥だらけになったらべたべたしたり臭いが気になる」などという「汚れ」に対するマイナスの感覚も喚起されるように思われる。また 16)の例も同様に、「台所の黒ずみは不潔で見た目もよくないし、臭いも気になる」という「感覚」が喚起される。

以上見てきたように、別義3になると「感情としての「嫌悪感」」はかなり薄らいでいるように思われ、むしろ感覚の方が強く打ち出されているように感じられる。

このように、別義3は他の感情とも連続性があり、さらには感情という特定の精神活動から、「感覚」という別の領域との繋がりもある。つまりより広範囲へ一般化されていると考えることができ、別義2'からのシネクドキーにより理解可能になっていると考えることができる。

ここまで「感情を表す「嫌う」」について考察した。次に「感情以外の意味を表す「嫌う」」について考察する。

### 3. 2. 2. 感情以外の意味を表す「嫌う」

別義4：<モノが><ある環境下におかれることによって><そのモノの機能が低下する>

17)電子部品のように、湿気、酸素、空気との接触を嫌うものの包装や、薬品や粉末のように湿気を嫌うもの、防湿効果が必要な工業製品の包装、錆を防止して保存するものなどを長持ちさせるにはガスバリアー性の高い包装

資料が最適です。

(<http://www.finepack.co.jp/sinkuu.html>)

- 18) 「虫歯」と「歯周病」おなじ歯に関する病気なのですが、違う種類の細菌が関係しています。空気が好きな細菌（好気性菌）と空気を嫌う細菌（嫌気呼吸）です。

([http://www.iat.co.jp/Yui/20020601\\_report.html](http://www.iat.co.jp/Yui/20020601_report.html))

17)は、電子部品が湿気や酸素や空気に触れると、変色や錆びなどを起こし、電子部品の機能が低下する、または機能そのものに異常をきたすことを指して「嫌う」と表現している。また 18)は、歯周病の原因である菌は、空気に触れないような場所である歯肉、歯根膜、歯槽骨など、歯を支えている歯周組織の奥へ入り込んでいって活動するが、空気がある場所（例えば歯の表面）では活動しないことを表している。またこのような「嫌う」の例には、以下に挙げるような、主体が植物である例がよく見られる。

- 19)シラカバ 陽樹・生長早い 冷涼な土地が良い 根元に強い日が射すのを嫌う 枝切りを嫌う

([http://www.izumi-green.co.jp/mygarden/02e\\_jyumo.html](http://www.izumi-green.co.jp/mygarden/02e_jyumo.html))

- 20)じかまきは、花壇または育てたい場所に、直接種を蒔くこと。主に根が直根型で移植を嫌う植物などは、この方法をとる。

(<http://wwwi.netwave.or.jp/~siki/yougoshu2.html>)

- 21) 環境・土質：ほとんどのハーブが地中海沿岸原産なので、日当たりがよく乾燥ぎみの環境を好み、酸性土壌を嫌います。

(<http://www.booktown.co.jp/hai/herb/kind/sentak2.html>)

19)～21)の例は、「植物」が「根元に強い日が射す」「移植される」「酸性土壌に植えられる」という状況下に置かれると、その植物の持っている生命力が削がれることを表している。また、この2つの例は、主体が植物であり、次に示す別義5との中間例とも考えられる。

別義5：<果物や野菜が><人間の手に触れることによって><果物や野菜の持っている鮮度が低下する>（「手を嫌う」という固定化した表現）

- 22)以前は家にも「梅」も「紫蘇」もぎょうさん（沢山）生りましたんで全て自家製でした。「梅は手を嫌う」なんて言って綺麗に色が出ないこともあ

る・・・と家の姑様がゆうておられました。私は大層好かれていたらしく何時も綺麗な色が出ます。

(<http://www2.odn.ne.jp/~aaj64280/pages/gokemidoro9.html>)

23) ”カブラは手を嫌う” という諺があるが、漬ける人によって赤くきれいな色になることと、赤みの少ないことがあり、きれいに漬ける人をわざわざ頼んできて漬けてもらう家もあった。

([http://cscns.csc.gifu.gifu.jp/virtual\\_museum/sanpo/yuki/1/10-15.html](http://cscns.csc.gifu.gifu.jp/virtual_museum/sanpo/yuki/1/10-15.html))

24) 私の地元では「ほうれん草は手を嫌う」と言われています。どうも私はほうれん草サマとは相性が悪いみたいです。

(<http://www.arisfarm.com/wwwboard/messages/254.html>)

筆者が調べた限りでは、22)～24)のように「果物・野菜」が主体となっている。そして「(果物・野菜は) 手を嫌う」という固定した形で用いられる。そして<果物・野菜が、(人によっては)手に触れるとその果物・野菜の性質が損なわれる>という意味を表す。<sup>8</sup>

別義4と別義5の間には、<モノが、ある環境下において、外部からの影響によって、本来あるべき状態が損なわれる>という共通項がある。そして別義4の<ある環境下におかれる>という意味特徴が、別義5では<人間の手に触れる>のように意味が限定されている。また、別義4の<そのモノの機能が低下する>という意味特徴が、別義5では<果物や野菜の持っている鮮度が低下する>とさらに<モノ>と<機能>の内容が限定されている。よって、別義5は別義4からのシネクドキーによって成立していると考えられる。

また、感情を表す「嫌う」(別義1から別義3)とは違い、感情以外の意味を表す「嫌う」(別義4と別義5)では、「嫌う」は「基本形(あるいはマス形)」の形で用いられ、テイル形は見られない。<sup>9</sup>この点は特筆すべきである。そして、さらに別義5では「手を嫌う」のように、さらに固定化した表現形式として用いられる。

以上、「感情以外の意味を表す「嫌う」」について考察した。<sup>10</sup>次節では「疎む」の分析を行う。

### 3. 3. 「疎む」の意味分析

<感情主が><人または事態に対して><よくない印象を抱き><その人や事態から心理的に(物理的に)距離を置こうとする>

(他の動詞「遠ざける」との連続性)

25) 両親はこんな不肖の息子をきっと疎んでいるのだろう」そんなネガティブ

な思考に陥った。そしてある日の夕食時。私は家族が「弟の旅行」の話で盛り上がっているのを目撃した。私は弟が旅行した事なんて知らなくて「ああ、俺は家族から放逐された」そう思った。

(<http://textkane.tripod.co.jp/convention2kouhok5.html>)

25)の作者は、「自分が両親からよくは思われていない」と思っていた。そしてある時、「弟が旅行した」という事を家族の中で自分だけが知らないという事実に直面して、自分が家族から放逐されたと感じた。これを「嫌う（嫌っている）」に置き換えると、若干許容度が落ちるように思われる。好き勝手なことをやっていて、同じ屋根の下に暮らしながらろくに家族とコミュニケーションを取ろうとしない作者に対して、作者の両親が、作者に対して単に「よくない感情を抱く」だけではなく、「どうせあの子（＝作者）は自分のことしか考えていないから、何を話しても無駄だ」と「心理的に距離を置いて」おり、それを作者が感じ取ったからこそこのような孤立感を味わったのではないだろうか。そしてこの「心理的に距離を置いている」点こそが「嫌う」にはない、「疎む」の特有の意味特徴であると考えられる。では次の例を見てみよう。

26)雷鬼は孤独だった。淋しかった。辛かった。しかし、そんな雷鬼にも情を寄せてくれる人物がいた。人里の生活を疎んで、山奥で隠遁生活を送っている老婆だった。雷鬼は、お婆と呼んでいた。

(<http://www.mctv.ne.jp/~kokuu/suimutann.html>)

26)は 25)の例で見た<心理的距離>に加え、<物理的距離>をも感じる例である。この例の「老婆」は、人が集まって暮らしている場所（人里）で暮らすことが自分の性分に合わないため、山奥で隠遁生活を送っているのである。老婆が「人里の生活を疎む」理由は、「人との接触を避けるため」であろうが、「人が集まって住んでいる場所によくはない印象を抱き、心理的距離を置く」と同時に「物理的な距離」も置いて、人里離れた山奥で暮らし、人と会わないようにする」という意味合いも含まれていると考えられる。したがって、「疎む」は、動詞「遠ざける」や「避ける」との類似性も感じられる。そして、「疎む」の意味特徴は、「嫌う」の別義3（<感情主が><ある事態を><自分にとって不利益なため><回避しようとする>）と近いと言える。ただし、「嫌う」の別義3が、嫌悪感を残しつつもマイナスの感覚がより強く感じられていたのに対し、「疎む」には「嫌悪感」のみが強く感じられる点は異なっている。

一方、次に挙げるのは、「嫌う」との互換性が感じられる例である。

27)冒頭にある、「やまと歌は・・・」（紀貫之・古今集仮名序）と言われるように、古く『万葉』の昔から5・7・5・7・7の短歌形式は、多くの人に親しまれてきました。鎌倉時代から室町時代になると、この短歌を上上の句（5・7・5の部分）と下の句（7・7）に分けて、別々の人が詠むことが盛んになりました。これを「連歌」と言い、あらゆる決まり事もこの時代にかけて発達しました。しかし、形式に縛られるのを疎んで（嫌って）、普通の言葉で、気楽に作れるものとして、「俳諧」（おどけ、戯れの意味）が、室町時代の後期には詠まれる様になりました。

(<http://www.geocities.co.jp/NatureLand/5310/gairon.html>)（下線部括弧内は引用者による）

27)の感情主は明確に示されていないが、文脈から「歌を詠む人たち」であると推測できる。「形式に縛られず、普通の言葉で気楽に作れるものとして「俳諧」が詠まれるようになった」という意味であることから、この「疎む」は「嫌う」の別義2'（<感情主が><ある事態に対して><自分の嗜好（考え）と合わないため><その事態を行わない>）とほぼ同義であると考えられる。ただし、「嫌う」の別義2'が、嫌悪感が多少薄らいでいるのに対し、「疎む」は嫌悪感が色濃く残っていると感じられる。この点は、先に述べた26)の「疎む」と「嫌う」の別義3との関係と同じである。

このようにして見てくると、「疎む」の意味特徴は、「嫌う」の基本義である<感情主が><ある人物やモノ（の持つ属性）や事態に対して><自分の嗜好基準と合わないため><よくない印象を抱き><拒否反応を示す>という意味特徴をおおむね基盤に持ちながら、そこに<心理的（物理的）距離を置こうとする>という意味特徴が加わったものと考えられる。そして「嫌う」の別義2'や別義3との類似性もあるが、「疎む」には一貫して嫌悪感が感じられる。

### 3. 4. 「嫌う」と「疎む」のまとめ

「嫌う」と「疎む」の類似点・相違点は以下のようにまとめられる。

- <1>「嫌う」には大きく分けて「感情を表す用法」と「感情以外のものを表す用法」とがある。
- <2>「感情を表す用法」には別義1～別義3までが認められ、別義2は別義1からのメトニミー、別義2'は別義2からのメトニミー、別義3は別義2'からのシネクドキーによって理解可能になっている。また、別義3に

なると、「嫌悪感」を残しつつも、マイナスの感覚が強く感じられるようになる。また別義3で取り上げた例は、動詞「避ける」や「困る」との連続性も感じられる。

<3>「感情以外のものを表す意味」では2つの別義が認められる（別義4・別義5）。別義4と別義5では、「嫌う」は「基本形（あるいはマス形）」の形で用いられ、テイル形は見られない。そして、さらに別義5では「手を嫌う」のように固定化した表現として用いられる。

<4>「疎む」には一つの意味特徴のみが認められる。「疎む」の意味特徴は「嫌う」の基本義を基盤に持ちながら、そこに<心理的（物理的）距離を置こうとする>という意味特徴が加わったものと考えられる。よって、動詞「遠ざける」との類似性も感じられる。また「嫌う」の別義2'や別義3との類似性もあるが、「疎む」には一貫して嫌悪感が感じられる。

#### 4. 今後の課題

「嫌う」との連続性が感じられた「避ける」と「困る」、また「疎む」との類似性が感じられた「遠ざける」の分析を試み、これら動詞間の意味の関連性についてより詳しく考察していきたい。

#### 注

- 1 本稿は、「日本語教育国際研究大会名古屋 2012 (ICJLE2012)」(2012年8月19日(日)於：名古屋大学)にて口頭発表したものを、加筆・修正したものである。発表の際に、司会者の中道知子先生(大東文化大学)をはじめ、多くの方々にコメントを賜った。この場を借りて御礼申し上げる。
- 2 筆者の研究テーマは、「マイナスの感情を表す動詞および動詞句の体系化」である。これまでの研究で、「怒り」を表す動詞および動詞句の性質を明らかにし、分析対象語句の意味分析を行った(「怒る、腹が立つ、頭に来る、むかつく、きれる、いきり立つ、憤慨する」など19語句)。その結果、「むかつく」が、「怒り」よりも嫌悪感が際立つ語であり、「嫌悪」の感情と連続性があることが明らかになった。よって、現在は「嫌悪」を表す動詞および動詞句の性質および意味を明らかにすることを目指している。具体的な分析対象語句は、「嫌う、疎む、虫酸が走る、気に障る、苦り切

る、腐る、顔をしかめる、眉をひそめる、愛想を尽かす／愛想が尽きる」を予定している。本稿は、その一部に当たるものである。なお、「嫌う」と「疎む」の類義語として、「厭う」と「疎んじる（疎んずる）」があるが、今回の考察対象からは除外した。主な理由は、「厭う」は比較考察に必要な十分な実例収集がかなわなかったこと、また「疎んじる」は、「疎んじられる」という受身形で用いられる実例が多く、テ形、および基本形での実例が少なかったことである。

- 3 「厭だ」という表記も可能であるが、「嫌だ」の方が一般性が高いと思われる。
- 4 比喩の下位分類にはこの2つのほかに「メタファー」もあるが、本稿の分析には使用しなかったため割愛する。
- 5 11)に類似した例は、残念ながら他には見つけることができなかった。11)のような「結果の行為」までを表すような例をさらに収集し、再検討したい。
- 6 小泉他編(1989)の「忌むべきこと」の「忌む」とは、『大辞林』（第二版）によれば「不快に思っで遠ざける。近づくことを嫌う。「不正を忌む」「鏡は湿気を忌む」(p.173)」であり、後者の例「鏡は湿気を忌む」は、小泉他編(1989)で挙げられている、「(2)ある状態や物に弱く、それによって損なわれがちである。(例)金魚は水道水を嫌う・タバコは湿気を嫌う・この観葉植物は寒さを嫌う」とほぼ同様の例だと思われる。よって、小泉他編(1989)が(2)と(3)を別義として立てるのは妥当性が低いと考えられる。
- 7 15)16)の例は、これまで見てきた例とは異なり、基本形の方が自然であり、テイル形は用いられにくいと感じられる(なお、16)の例は「母親」を感情主にして書き換えて示す)。

?)15) 子供に原っぱで遊べって言っても、子も親も汚れるのを嫌っているから無理だ。

?)16) 母親は几帳面な性格で、台所で目に触れないところでも黒ずんでしまうのを嫌っている。

これらの例が基本形で用いられた方が自然だと感じられるのは、これらの例が習慣を表す例に近い(例:「朝はいつも6時に起きる」)からだと思われる。しかし、これらの例が本文で述べたように、「困る」と連続性が感じられることも関係しているのではないかと現時点では考えている。「困る」も15)16)の例のように、基本形で1人称感情主の感情を表すことができる(例:「彼は約束の時間にいつも遅れて来るので(私が)困る」)。



よって今後「困る」の振る舞いを分析することによって、この点も明らかにできるという見通しを持っている。

- 8 『大辞林』（第二版）には「手を嫌う」についての語義説明はない。
- 9 注7ですでに述べたように、別義3の「困る」との連続性を表す例(15)(16)については、基本形で用いられた方が自然だと感じられる。
- 10 「感情を表す用法」と「感情以外のものを表す用法」との関係については、今後の課題としている。一つの動詞にこのような異なった用法がある場合、この2つの用法を包含するようなより抽象度の高い意味特徴を挙げ、その中でこれらの用法を考察する方法も可能であるが、現時点では妥当性の高い意味特徴を挙げ十分に説明する用意がない。

## 引用文献

- 小泉保他編(1989)『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店
- 中道真木男・有賀千佳子(1993)「感情表出表現における副詞のはたらき」『日本語学』Vol.12, No.1, pp.85-93, 明治書院
- 馬場典子(2009)「怒りを表す動詞(句)の意味分析」名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻博士学位論文(未公開)
- 松村明編(1999)『大辞林』（第二版）三省堂
- 榎山洋介(2002)『認知意味論のしくみ』（町田健編）研究社

## 実例出典

- 青空文庫(URL:<http://www.aozora.gr.jp/>)
- 朝日コム (URL:<http://www.asahi.com/>)
- 検索エンジン Google (URL:<http://www.google.co.jp/>)